足助中学校同窓生の皆さんへ

皆さん、こんにちは。
足助中学校同窓会会長を拝命しています中野幸彦です。
私は、平成20年より会長を務めさせて頂き、４年になります。今回あすけ通信の第３号が発刊されるに当たり、足助中学校を卒業された皆さんにご挨拶をさせていただきます。

一昨年に足助中学校同窓会は、40周年を向かえてささやかな式典を開催し、記念の品を在校生や関係者の方に配らせていただきました。

この通信を見られているあなたは、足助を遠く離れている、もしくは何年も足助に戻っていないかもしれませんが、40年以上歴史があり6,000名を越える足助中学校同窓会の一員であることは間違いありません。

この通信で足助中学校の、そして足助地区の情報を知っていただき、少しでも皆さんの故郷が近い存在であり続けることを願っています。

足中祭で地区ごとに防災マップを発表する生徒たち

足助中学校　校長
藤嶋力央

中学校の文化祭『足中祭』は、２日間の開催で、１日目は体育大会、2日目は合唱コンクールをメインに、生徒会企画の活動を織り込み、行っています。本年度は、ＡＳＫ運動で各地域の防災マップづくりをしてきた経過を発表しました。『防災は足下から』の考えは、太田豊田市長の学校訪問でも紹介し、地域の防災意識を高めるための効果的手法として評価をいただきました。地域を守る力としての中学生の存在をアピールしています。

足助の冬のイベント

大晦日　香嵐渓ライトアップ
午前0時前後に香嵐渓をライトアップして足助八幡宮への参拝客の方をもてなします。

足助八幡宮厄除け
1月1日(火)　0時～
足助出身の厄除け祈願の男性が集い、初詣に来た方にお菓子をふるまいます。

足助屋敷の正月遊び
1月3日(木)～1月6日(日)
かるた、羽つきなどの昔懐かしい正月遊びを体験できます。３日の来館者には、甘酒をふるまいます。

足助八幡宮七草粥
1月7日(月)
１年の無病息災を祈念して七草粥をふるまいます。

中馬のおひなさん
2月9日(土)～3月10日(日)
重要伝統的建造物群保存地区に指定された足助の古いまちなみに、各家庭の思い出が詰まったおひなさんが飾られます。

－編集後記－

あすけ通信第弐号について、たくさんのご意見、うれしいご感想をいただいています。その一部を紹介しますね。

「子どもたちが香嵐渓に行きたくなるような特集などをお願いしたいです。／楽しみにしています。／第弐号が早くも届いて驚きました。次号も楽しみにしています。／家族で行きたくなるような情報が知りたいです。／町並み、通った学校など、今の私にとっては懐かしい風景を見たいです。／まだまだたくさん足助に残っている人がいると思います。あすっこ紹介をお願いします。／畑や田んぼを今でも続けて頑張っている人たちを取り上げて紹介してほしい。／読者が足助に住もうと思う気持ちに役立つ情報があるとよいと思います。／足助出身者でイベントを企画し、登録者同士の交流の様子を掲載して欲しい。／カラーはとても見やすくてうれしいです。もう少し字が読みやすいとうれしいです。／自分が行っていた小学校や足中が今どんな感じなのか気になります！！みんな元気かなぁ♡／足助が好きで、好きなお店もあり、月1回は車を走らせて行きます。」

みなさん、ありがとうございます！楽しみにしてくださっているというご感想に感激しています！！限られた誌面、発行回数ではありますが、できるだけご要望にお答えできるよう工夫して行きたいと思っています。今後ともご意見ご感想を、どんどんお寄せくださいね！（た）

あすけ通信/vol.3

あすけ通信メルマガ版
※無料メールマガジンのため、オフィシャルマガジンが配信されることがあります。ご不要の方は右側ＱＲコードにアクセスして解除してください。
※登録する際は、メルマガ配信サイトの利用規約に同意の上、登録してください。

☆Blog、Twitter、Facebookもあるよ!!☆

発行　あすけ通信編集委員会事務局　豊田市役所 足助支所(豊田市足助町宮ノ後２６－２)
電話　０５６５－６２－０６０１　Email　asuketsushin@city.toyota.aichi.jp

あすけ通信

足助とつながる情報誌

２０１２
第参号

お品書き

―足助(ここ)から―
秋の香嵐渓からの便り

―消防団第一分団紹介―
親王町、田町、椿立、御内を対象に活動する第一分団を紹介

―あすっこ紹介―
今回は、中馬柿や白パンで有名な両口屋の佐久間洋和さんを紹介

―山里あすけ体育祭―
600人参加！！皆さんにお馴染みのレクバレー大会の報告

―ふれあいフェスタ冷田―
ふるさとを歩こう！！ふるさとを満喫するふれあいフェスタの報告

―平勝寺の観音様
パラミタミュージアムへ―
滅多に拝観できない平勝寺の観音様が三重県にある美術館へ

―足中同窓生の皆さんへ―
足助中同窓会長さんから同窓生の皆さんへのごあいさつ

―足中校長先生より―
足中祭について校長先生より一言

―足助の冬のイベント―
足助は冬もイベント盛り沢山！！

Photo by N.Takaki

消防団紹介　第１分団

第１分団は、新王町、田町、椿立、御内の４地域からなる分団。団結力があり、土日の奉仕活動などでも出席率は９割以上を誇る。その裏には、事前連絡を早めに行うなど班長さんの努力がある。時代が流れ、団員数の減少など消防団を取り巻く環境が厳しさを増している中でも、工夫を凝らし地域を守り続けてくれている。

今年は、豊田市消防操法大会に出場するべく、昨年の11月から今年の６月まで練習に励んだ。上の写真は、大会出場時の写真である。

消防団は、世代を超えた横の繋がりを形成できる絶好の場であるとともに、万が一の災害時、地域を守り、人命を救うための術を学べる場だと、第１分団の役員方は口を揃える。地域のこれからを支えていく気概が垣間見えた。（け）

あすっこ紹介

三人目　佐久間家十一代目　西口屋　佐久間洋和（さくまひろかず）さん

「けっこう足助が好き、全部が好き。町から人から雰囲気から。便利ではないけど心地いい。」旧家の風格そのままの重厚な存在感の佐久間家11代目が、梁が剥き出しの高い天井に眼差しを遊ばせながらさらりとささやいた。山持ちだけにゆるされた贅を尽くした商家の建築。かつては繭問屋で７代目までは世襲制で代々佐久間平兵衛（へいべえ）を名のった旧家の11代目である。

足助中学校卒業後、当時まだ男子校だった岡崎城西高校へ進学、３年間家から通った。外に友達を作ることが高校進学の目的であった11代目には約1,800人の在学生は魅力であった。

卒業後東京の日本菓子専門学校に進学。製菓衛生師免状の取得はさることながら、ここでも友達づくりに努めた。さまざまな活動を通して日本中に仲間を持つ父の影響は大きかったようである。

専門学校卒業後、かつて父親も修行をした安城の両口屋で５年間を過ごした。「ありがたいことに使えんうちに給料をもらって仕事をやれる体の基礎を作ってもらった。」

満を持して足助に帰ってきた。「いつも通り。足助は足助、足助の時間が流れていた。自分の小っちゃい時のまま。」

しかし職人としてはじめて関わったうちの仕事は想像とかけ離れていた。現実と目指す方向の調和がとれるまでに何年もかかった。そして父が創作した【中馬柿】など四季折々の定番商品、祖父の代からの人気商品【白パン】は次の時代に伝えていくと決めた。

小さい頃、夜中にサイレンが鳴ると消防団員として家を飛び出ていく父の姿は子供ながらにほれぼれした。お祭りの日は友達と朝早くから中段（山車の外から見えない空間）に入れてもらい、いつか上に上がりたいと胸に秘めながら一日中乗っていた。中枢となった今も時々そんなことを思い出す。

現在足助商工会青年部部長。名実ともに地域の“顔”となった。「足助に来てくれる人も大事だけど人に住んでほしい。」3軒向こうまで夕飯が互いにわかる暮らしを愛する11代目は『ただ今嫁さん募集中！』である。　現在　35歳　　1977年生　（ひ）

平勝寺の観音様 パラミタミュージアムへ

去る８月30日（木）～10月10日（水）、国の重要文化財である綾渡町平勝寺の聖観音菩薩坐像が三重県菰野町のパラミタミュージアムで開催された『南都大安寺と観音さま展』に出展されました。

重要文化財の観音様が参集されたホールで、大きな壁面の中央にそのお姿はありました。左右に三体ずつ十一面観音立像が並び、一段高い立派な台に鎮座。

平勝寺の観音様の前に置かれたインフォメーションパネルには、「このような木像は平安彫刻史上に希な像として注目されるべき作品である。大きな像であるにも関わらず、その彫技は緻密で品格高い」とありました。

パラミタミュージアム学芸企画部長の赤川一博氏は、「全国を見渡しても重要文化財の観音様は2000体。その中で座っているのは10体ほど。平勝寺の観音様をあだやおろそかにしてはいけない。」とおっしゃっていました。

次にお目にかかれるのは2025年の平勝寺の御開帳の時。実に17年に１回の開催です。憶えていてぜひ足を運んでください。（ひ）

山里あすけ体育祭

快晴の10月21日（日）、足助グラウンドにおいて山里あすけ体育祭が開催されました。600人を超える参加者がレクバレーで親睦を深めました。

足助町時代から数え今年43回目を迎えた足助の恒例行事です。現在は一部（本格的な９人制レクバレー）と二部（気軽に参加できるわきあいあい９人制バレー）でリーグを分けて開催。参加資格は足助にゆかりのある人。各自治会で山里あすけ体育祭参加のために帰省して活躍する若者の姿がありました。

読者のみなさんも来年の山里あすけ体育祭に是非参加され、足助グラウンドでミニ同窓会はいかがでしょうか。（ひ）

第13回ふれあいフェスタ冷田

第13回ふれあいフェスタ冷田が11月18日（日）に開催されました。恒例となりました冷田ウオークは、総員450名の参加をいただき冷田小学校をスタート・ゴールとして煌めきの里（国谷町）・蛍の里（栃本町）をめぐるコースで実施されました。

途中には国谷の弁天池、栃本の矢元の滝などを廻り、参加者は秋の美しい里山風景を楽しんでいました。

ゴールの冷田小学校では体験イベント、バザー、三州足助太鼓の演奏、国谷町の地域づくり団体「煌（きら）」による国谷オリジナルのお囃子演奏などの催しを通してこの地区の心意気を感じていただけたと思います。また、冷田小学校の皆さんによる冷田地区の紹介プレゼンと、ご当地ゆるきゃらの投票も行われました。

冷田地区では、現在、定住対策事業として、旧冷田小学校跡地の宅地分譲が進んでいます。ふれあいフェスタ参加を機にこの地区の環境の良さと心の豊かさを感じていただき多くの方に定住へのきっかけとなればと思っています。（ふ）